

平成30年度 学校評価

[各校の重点取組について]

不登校対策重点校として不登校生徒の支援や関係機関との連携によって課題解決に一層取組む。

授業改善と家庭学習の定着、基礎基本の反復学習により、学力向上に取組む。

学校業務改善と勤務時間の適正化に取組む。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
1 秋田県への短期派遣や先進校視察などを実施し、その研修報告会を開催し、全体に成果を広めている。 2 家庭学習や授業改善などの学力向上への取組の実施により、少しずつではあるが、成果が出ている。 3 特別支援教育委員会・不登校委員会を統合し、教育相談・特別支援教育委員会としてことで、特別支援学級在籍生徒のみならず特別に支援の必要な生徒の教職員間の情報共有がスムーズになり、支援が手厚くなった。 4 家庭科の授業等を通して食育に取組むと共に各種のアンケート調査を踏まえた生活習慣の指導を行った。 5 体育の授業や部活動を通じて体力・運動能力の向上が図られた。	1 アクティブラーニングの視点からの授業改善について、次年度も①互観週間の実施②校内研修の充実③先進校・実践校への視察の継続を通して全体のレベルアップを図りたい。 2 毎日の学習プリントの活用や朝のドリル学習とテスト、3年終礼学習の取組を継続する。 3 教育相談・特別支援教育を一層充実させるため、校内研修や別室登校・サテライト教室の活用などきめ細かな指導を心がけていく。 4 次年度からの部活動のあり方について新たな指針に沿って有意義な活動になるよう計画していく。	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もががすしやすい学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	3	3
取組とその成果	課題と改善策	
1 各アンケート調査や学校環境適応感尺度「アセス」を活用し、生徒一人ひとりの状況に応じた教育相談を行うことができた。 2 次年度からの「特別な教科 道徳」実施に向け、校内研修を実施し、教職員の共通理解を図った。 3 いじめ防止基本方針に基づき、未然防止・積極的認知につとめ、早期対応することができた。 4 総合的な学習・特別活動の時間を活用して、「未来への扉」に沿ったキャリア学習を実施し、「なぜ学習するのか」「働くことの意味」などについて講演会や体験活動を通じて、生徒の興味関心を高め、理解を深めることができた。	1 「アセス」を継続実施することで、生徒一人ひとりの学校適応感を測り、個々に対応する事に努めると共にその中からいじめにつながる要因の早期発見にも努める。 2 「特別な教科 道徳」の指導・評価について教員の学ぶ機会を増やし、確実に実施できるよう充実した研修に努める。 3 将来地域社会に貢献できる人材を育成するため、キャリア教育についても「未来への扉」の活用と体験活動を重視して取組む。	

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する		
取組とその成果	課題と改善策	
1 不登校対策重点校として、年間5回の継続したスーパーバイザーの講演やケース会議の実施や尼崎総合医療センターとの連携によるシミュレーション研修や校内研修・先進校派遣により教育課題に対する資質向上に努めた。 2 教職員の勤務時間の適正化を図るため週2日の「定時退勤日」を設けた。また、大幅な分掌の改編を実施し、会議の縮減に取り組んだ。 3 校舎移転により、地域の理解と支援をいただき学校教育活動が実施できた。また、「小田まつり」に生徒有志がボランティアとして参加した。	1 教職員の年齢や経験年数を勘案した研修や教育課題の変化などに適切かつ柔軟に対応するための研修に努めていきたい。 2 教職員の働き方改革を意識した、部活動の指導の見直しや学校ルールブックを活用した業務改善に取り組む。 3 地域や保護者との連携、関係機関やSSWなどとの連携により、今後とも継続して学校教育活動への理解と協力をお願いする。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 安全教育的取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育的取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
1 生徒への自転車安全教室や心肺蘇生研修、非行防止教室等や教職員のシミュレーション研修を実施することができた。また、新校舎移転に伴い生活ルールの変更や通学路の変更により生徒・教職員が順応できた。 2 新校舎での避難計画を策定し、生徒・教職員共に防災意識を高めると共に大阪北部地震や台風の被害も経験したことから被災時の行動について深く考える事ができた。	生徒・教職員共に危機管理意識を高めるための今後とも講演や訓練・体験学習を重視し、命を守る取組を大切にしていきたい。	

教育目標	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	3

取組とその成果	課題と改善策
<p>1 学校教育目標を「自ら学び、そして互いに学び合うことのできる生徒の育成」「しっかりとした規範意識を持ち、人との関わりの中で豊かな心を持つことができる生徒の育成」「心身共に健康で、将来地域社会に貢献できる生徒の育成」と変更し、学校全体の教育デザインを再構築した。</p> <p>2 教育デザインに沿った、具体的な取組・研修を実施することができた。</p>	<p>1 目指す生徒像・目指す教師像を明確にして、学校教育目標にむけ取組を整理することができた。アンケートや調査からも一定の成果が出ていると考えられるが、次年度以降は、この継続と細かな修正が求められている。</p> <p>2 授業改善・学習習慣の定着・キャリア教育の推進・道德教育の充実など取組むべき課題について継続と改善を目指す。</p>

研究テーマ	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	3

取組とその成果	課題と改善策
<p>1 研究テーマを「夢の実現に向けて自ら学ぶ意欲を引き出す仕掛けづくり」と変更した。</p> <p>2 仕掛けづくりについて生徒側・教師側双方の取組について明確化した。</p>	<p>キャリア教育やICT機器の活用、アクティブラーニングの活性化など生徒・教職員共に学び続ける姿勢を大切に研究・実践・研修を積み重ねていく。</p>

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)

取組とその成果	課題と改善策